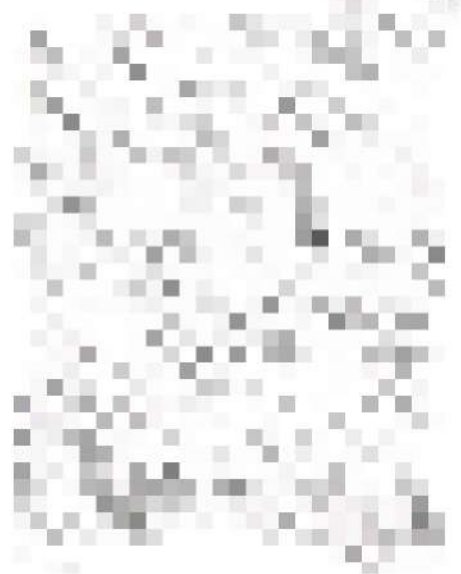
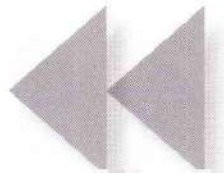


Scramble Shot



opera

ヌッチが、ミラノ・スカラ座養成所企画でリゴレットを歌う

「レオ・ヌッチのキャリア50周年記念」から発した《リゴレット》が、ミラノ・スカラ座養成所企画としてようやく2年遅れて実現した。1994年のプロダクションで2013年には日本でも上演されたジルベール・デフロの演出、指揮は予定されていたネッロ・サンティの代役をダニエル・オーレンが、声楽的な意味では立派に務めた。オーケストラはパンダをはじめとしてミスが目立ったが、初日(9月2日)だったからかもしれない。

当たり役として周知されているリゴレットのヌッチと同じ舞台に立てるのはアカデミー生にとって一生の宝になるだろうが、彼らのレヴェルもひけを取らなかった。マントヴァ公チュアン・ワンは輝くテノールの声とフレージングで堂々と大器を予感させた。それに比べると、エンケレーダ・カマニは教科書的な歌い回しだが、その無垢な声はジルダに臨場感を与え、その昔、マリエッラ・デヴィーア



レヴェルの高かったスカラの養成所の歌手たち。中央、リゴレットを歌ったヌッチ ©Teatro Alla Scala
が成したように、スカラ座中を静寂に導いた。〈復讐の二重唱〉もアンコールし、ヌッチ健在を証明した公演となった。

(中 東生)